

和歌山県西牟婁郡白浜町で発見された稀産種フデノホ (緑藻綱)

久保田 信*・鯨坂 哲朗**

Shin KUBOTA and Tetsuro AJISAKA : An uncommon sea alga *Neomeris annulata* (Chlorophyceae)
discovered at Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

フデノホ *Neomeris annulata* DICKIE は、緑藻綱カサノリ目ダジクラズス科に属し、本州太平洋岸南部から南西諸島及び小笠原諸島の潮間帯やタイドプールで岩や死サンゴ塊の上に多数個体がまとまって生育している。フデノホ藻体は先端の方がやや太い円柱状から紡錘状で、その中軸は分岐せず、全体的に石灰化し、すりこぎのような形で、高さは3 cm 未満、太さ数 mm 程度までである。下部は石灰質が沈着して白く崩れやすいが、上部は明るい緑色から黄緑色で、先端部はなめらかで緑色の毛(糸状の細胞)が房のように出ていることが名前の由来となっている(神谷監修, 2012)。本種は42年前に和歌山県日置川町(2006年白浜町と合併)で本州初記録として確認されてからは、和歌山県串本町(山本, 1971; 環境省)以外の報告がなかったが、今回、和歌山県白浜町臨海から初めて発見されたので、報告する。

和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“南浜”の波打ち際付近の水深1mで、拳大の石(長径85 cm 短径68 cm 高さ60 cm)の表面に生育している藻体群を、久保田がスキングダイビング中に発見した。石の上には73個体のフデノホ藻体が生えており、これ

らの藻体のうち、高さは最長15.9 mm、太さは最大2.1 mmであった(図1, 2)。この藻体群でいくつか大型のものを採り、錆びた10円玉一枚を入れて銅イオンを補充し、緑色の体色を保てるホルマリン液浸標本を作成した。

今回発見されたフデノホは緑色を保った藻体であり、遠く南西諸島や紀伊半島中南部から藻体群が何かの基質に付着して流れてきたのではなく(久保田, 2011)、白浜付近に定着している可能性が考えられる。昨今の地球温暖化(海水温の上昇や黒潮の接近など)により本種の分布域がさらに拡大している可能性もある。

引用文献

- 環境省串本海域公園串本産海藻図 www.env.go.jp/nature/nco/kinki/kushimoto/.../algae_index.html
神谷充伸(監修) 2012: ネイチャーウォッチングガイドブック 海藻. 271頁 誠文堂新光社, 東京.
久保田 信. 2011: 和歌山県白浜町海岸へ漂着した熱帯系の海藻. 南紀生物, 53(2), 137.
山本虎夫. 1971: 本州新産フデノホ(緑藻類). 南紀生物, 13(2), 44.



図1 和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する瀬戸臨海実験所“南浜”で採取したフデノホ



図2 大型藻体

* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
** 〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻